

(共同リリース)

2023年12月20日

鹿児島県喜界町

株式会社クラダシ

日本エアコミューター株式会社

喜界島の農業課題解決に取り組む、連携協定を締結

～第1弾では、特産品のマンゴーの魅力発信に取り組みます～

鹿児島県喜界町(所在地:鹿児島県大島郡喜界町、町長:隈崎悦男、以下「喜界町」)とソーシャルグッドマーケット「Kuradashi」を運営する株式会社クラダシ(本社:東京都品川区、代表取締役社長:関藤竜也、以下「クラダシ」)、JALグループの日本エアコミューター株式会社(所在地:鹿児島県霧島市、代表取締役社長:武井真剛、以下「JAC」)の3者は、地域課題である就農人口の減少・高齢化をはじめとした農業の課題解決による、持続可能な社会の実現を目的に連携協定を締結しました。

その第1弾として、2024年に特産品のマンゴーの魅力発信に取り組みます。



【マンゴーの魅力発信に向けた主な取り組み概要】

① 社会貢献型インターンシップの実施

クラダシが展開している社会貢献型インターンシップ「[クラダシチャレンジ](#)」を喜界島で実施します。全国から応募で集まった学生たちが、喜界町のマンゴー農家での農業体験などを通して、人手不足の解消や未収穫品の削減に貢献し、地域経済について学びます。

● クラダシチャレンジ

クラダシは「日本で最もフードロス削減する会社」をビジョンに掲げ、フードロス問題や地方創生に興味関心のある学生向けに、日本全国の地域・農家ヘインターンとして訪れ、収穫支援や現地交流を通して一次産業や地域経済の活性化について考える「クラチャレ」を展開しています。

② EC サイトでの喜界島マンゴーの販売

クラダシのECサイト「Kuradashi」にて、喜界島マンゴーまたは関連商品の販売を予定しています。

● 喜界島マンゴー

喜界島ではマンゴーの栽培が盛んで、昭和61年には日本初のマンゴーを市場に出荷しています。長年かけて培われた高度な栽培技術を駆使したマンゴーは、奄美大島地区の品評会でも、毎回のように入賞していますが、人口減少や農家の高齢化などの影響で適正な栽培管理が難しくなりつつあり、その解決に取り組んでいます。

JALグループはESG戦略の一環として、人・モノの「移動」は社会的な「つながり」を創出し、その「移動・つながり」が地域経済の活性化につながるなど、さまざまな社会課題を解決し、社会的な価値の創出を目指しています。

JACは今年創立40周年を迎え、就航地が抱える地域課題の解決に取り組んでおり、喜界町とクラダシの架け橋となることで、本連携協定の締結が実現しました。

今後も3者が連携してフードロスや農業課題を解決し、喜界島の魅力を多くの人にお届けすることを通して、地域の元気づくりをサポートし、喜界島の持続的な発展に貢献してまいります。

以上